

「パラガングリオーマにおけるノルエピネフリントランスポーターとソマトスタチン受容体発現の臨床的意義」に関する研究について

1. 研究の対象

2012 年から 2024 年までの間にパラガングリオーマ (PGL) の診断もしくは治療のための検査を受けた患者

2. 研究目的・方法

PGL はエピネフリンやノルエピネフリンなどのカテコラミンの産生能を有する腫瘍です。PGL の多くはノルエピネフリントランスポーター (NET) を発現しています。PGL はノルエピネフリンの類似物質である meta-iodobenzylguanidine (MIBG) を NET によって細胞内に取り込むことから、MIBG は ^{123}I -MIBG による PGL の画像診断、 ^{131}I -MIBG による放射線内照射療法に臨床応用されています。放射線内照射療法では、NET から腫瘍細胞内に取り込まれた ^{131}I -MIBG が β 線によって細胞を障害することで、その増殖を抑制します。

また、PGL の多くはソマトスタチン受容体を発現しています。そのため、ソマトスタチン受容体リガンドに放射性物質を結合させた放射性医薬品を用いて、ソマトスタチン受容体を発現する PGL の画像診断、放射線内照射療法に臨床適応されています。

しかし、MIBG の取り込み及びソマトスタチン受容体リガンドの結合は個人差があり、画像診断や放射線内照射療法が実施困難な症例も存在します。従って、MIBG の取り込み及びソマトスタチン受容体リガンドの結合に関する PGL の臨床的特徴を解明できれば、PGL の診断、治療に有用であると考えられます。そこで、MIBG の取り込み及びソマトスタチン受容体リガンドの結合に関する PGL の臨床的特徴を解明することを目的に研究を実施します。

大阪大学医学部附属病院倫理委員会の承認に基づき、同意取得済みの PGL 患者の患者背景・生化学検査・画像・病理組織学的検査のデータを用います。また、MIBG の取り込み及びソマトスタチン受容体リガンドの結合に関する因子として、病理組織の NET とソマトスタチン受容体の発現量を免疫染色にて評価します。

研究期間: 研究機関の長の許可日～2027 年 3 月 31 日

試料・情報の利用開始予定日: 2025 年 3 月 1 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料: 手術により得られた病理組織

情報: 既往歴、現病歴、処方歴、血液・尿検査値、画像検査など

4. 研究組織

(利用する者の範囲)

大阪大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌・代謝内科

住所:〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-15

電話:06-6879-3732(代表)

FAX:06-6879-3739(代表)

研究責任者：向井 康祐

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所:吹田市山田丘2-2、電話:06-6879-3732

担当者の所属・氏名:大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 助教 向井康祐

研究責任者：

大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 助教 向井康祐

研究代表者：

大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 助教 向井康祐